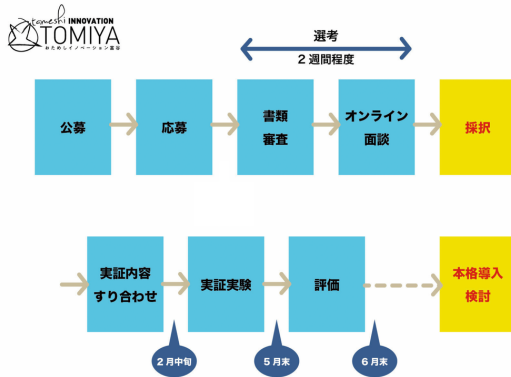


## おためしイノベーション富谷



おためしイノベーション富谷（通称：OIT）とは、「行政・民間企業・住民（富谷塾生等）」の協働により、行政課題や地域課題に対して民間のサービスやテクノロジーを活用し、最適な解決策の検証を行う事業です。

今回、市民協働課、教育総務課、総務課（電算）＋長寿福祉課、都市計画課の各課から挙げた4つの課題について参画企業の募集を行ったところ、合計12の企業や個人の方から応募がありました。2月1日現在は書類選考が終わり、今後はオンライン面談を経て採択となります。

## サテライトオフィス誘致

「日本全国、魅力的な地域がたくさんある中で、移住先として選んでもらうためにはどうしたらよいだろうか」私たちは各地の企業の視点に立って、このような議論を進めています。

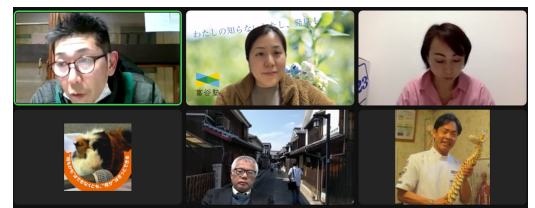
サテライトオフィス誘致とは、地域外の企業に第2、第3の拠点を作ってもらうことです。2020年に株式会社パソナグループは本社機能の一部を淡路島に移設すると発表しました。このように本社を地方に移すという例も全国で見受けられるようになってきて、高齢化の一途だった地域が、活性化するような前例もできてきました。

### 富谷親子ワーケーション研究会発足！

富谷市の特徴は、住民の平均年齢が低く子育て世代が多く住んでいることです。これを売りにしなくてどうする！と、子育て世代が仕事をしやすい環境を推していきたいと思いました。いきなり移住はハードルが高いため、まずはワーケーション（ワーク×バケーションの造語、仕事をしながら違う環境でリフレッシュという意味です）をしに来てほしいと「富谷親子ワーケーション研究会」という任意団体を立ち上げました。

### オンライントークイベント開催 持続可能な地域の作り方.01「地域で仕事を作ること」

研究会の立ち上げの際に、遠く栗原市花山からTOMI+に来てくれた元地域おこし協力隊の阿部幹司さんの地域で仕事を作ったストーリーが大変興味深く、もっと多くの人に聞いてほしいと思い、オンライントークイベントを開催することに。イベントには広島や神戸など様々な地域の方が参加してくれて、阿部さんの地域に入っていくコツや地域を想う熱い想いに、熱心に聞き入っていました。



## 塾長ミーティング

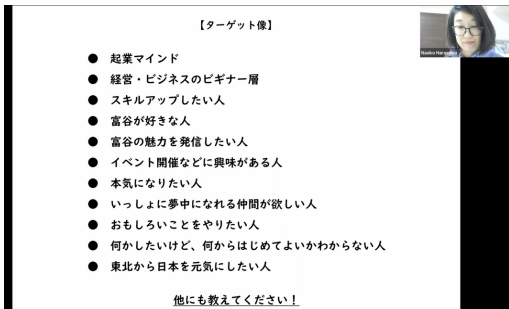


1月26日、第3回塾長ミーティングが開催されました。塾長ミーティングは、塾生が塾長である若生市長と直接お話できる貴重な機会です。

今回も4名の塾生が参加され、若生塾長から具体的なアドバイスをいただきました。「塾長の決心の条件」についての話は市役所の皆さんも必聴だったのではないのでしょうか。参加した塾生からは「こんなにも塾生の話を聞いてくれるなんてすごい！」と感動の声も聞かれ、大変有意義なミーティングになりました。

# 富谷塾のキャッチコピーを考えました

## 「わたしの知らないわたし、発見！」ほか



1月13日、20日、27日の3回にわたって、キャッチコピーを考えるワークショップが開催されました。講師を務めてくださったのは原澤尚子さん。キャッチコピー作りの基本から、実際にキャッチコピーを作るところまで伴走していただきました。

最終的には参加者で「富谷塾」をテーマにキャッチコピーを作りました。「わたしの知らないわたし、発見!」「あなたは誰ですか?その答えもっと増えます。」「『出会い』のち『学び』、所によって転機となるでしょう。」などの作品が考案されました。これらは今後新しく開設される富谷塾ホームページなどで使っていく予定です。

## 部活・妄想ミーティング

### 妄想ミーティング .104 「同じ映画を観た人とゆるくつながろう」



1月12日、映画を通して人とゆるくつながることを目的としたイベントが開催されました。このイベントを主催したのは、12月に開催されたStartupWeekend富谷で結成されたチーム「マイパブリック」です。

109シネマズで映画を観た後に、軽食をとりながら感想をシェアしました。観た映画は「スパイダーマン：ノー・ウェイ・ホーム」。シリーズものだったこともあり、マニアックな伏線の話も出て映画好き同士盛り上がりました。

妄想ミーティングという名の実証実験でもあったこの企画。マイパブリックのメンバーは「課題が見えて良かった」と成果を語ってくれました。

### 妄想ミーティング .106 「居場所研究会」



1月17日、リアルとオンラインのハイブリッド形式で開催された第一回居場所研究会。市長も駆けつけてくださり、全部で11名の方が参加されました。

最初に、参加した理由を一人ずつ話していただき、次に「居場所とはどんなところだろう?」をテーマに意見交換をしました。TOMI+が居場所だという意見に対しては共感する方も多く、TOMI+の存在意義を改めて考える機会にもなりました。

今後は部活として、読書会など具体的な活動をしていく予定です。

### 英語部発足



この度TOMI+ ENGLISH CLUBが発足しました。部長兼講師を務めるのはTOMI+コンシェルジュの佐藤由崇さん。佐藤さんは自衛隊で通訳をしていた経歴の持ち主です。

このクラブは単なる英会話クラブではなく、英語の学び直しを通じて自分自身のこと、地域や国の文化などについても学び、コミュニケーションツールである英語と実際に伝える中身を一緒に培っていく場にしたいとのことです。今後は中学英語の学び直しから始め、将来的には外国人ゲストを富谷でおもてなししたり、民族ギャラリーを初めとする富谷市の郷土資料を翻訳すること等を目指します。

1月27日に開催された第1回目の参加者は4名でしたが、興味を持っている塾生はかなり多いようです。